子ども期の社会性の発達に影響する遺伝と環境(2)

—乳幼児期におけるコンピテンスと社会性との関連—

○眞榮城和美¹・酒井厚²・前川浩子³・松本聡子⁴・上長然⁵・酒井彩子⁴・則定百合子⁶

(¹ 清泉女学院大学・² 山梨大学・³ 金沢学院大学・⁴ お茶の水女子大学・⁵ 近畿大学豊岡短期大学・⁶ 和歌山大学)

キーワード:コンピテンス・社会性・双生児

Genetic and Environmental influences on Sociability of Children (2) –The Relationships of child competence and sociability–

Kazumi Maeshiro¹, Atsushi Sakai², Hiroko Maekawa³, Satoko Matsumoto⁴, Moyuru Kaminaga⁵, Ayako Sakai⁴ and Yuriko Norisada⁶,

(¹ Seisen-Jogakuin College, ² University of Yamanashi, ³ Kanazawa Gakuin University, ⁴ Ochanomizu University, ⁵ Kinki University Toyooka Junior College and ⁶ Wakayama University)

Key words: Competence・Sociability・Twins

目 的

本研究は「子ども期の社会性の発達に影響する遺伝と環境(1)」の研究目的に則し、子どもの社会性の発達に影響を及ぼす要因について、子どものコンピテンスを中心に検討することを目的としている。具体的な目的は次の3点である。①乳幼児期のコンピテンスを測定する尺度を使用し、子どもの発達段階による性差の比較を試みる。②対象者が双生児である特徴を活かし、卵性によるきょうだい間のコンピテンスの同異について報告する。③コンピテンスと社会性との関連について検討する。

方 法

1) 調査対象者：本研究の対象家庭は、全国規模の多胎児子育て支援サークルの協力を得て調査依頼への同意を得た1～6歳の双生児(一卵性双生児:41ペア、同性二卵性:42ペア、異性二卵性:36ペア、不明:2ペア)であった。平成21年4～8月に郵送法により質問紙調査を実施し、保護者1名(全家庭が母親が記入)に回答を依頼した。子どもの平均月齢は50.5ヶ月、母親の平均年齢は38.3歳であった。

2) 質問内容

①コンピテンス尺度:幼児版 The Pictorial scale of perceived competence and social acceptance for preschooler and kindergartener (Harter&Pike,1983;以下、PSPCSAと表記)の教師版のコンピテンスに関する12項目を保護者版に改訂した尺度(眞榮城,2010)を使用した。PSPCSAの対象は3-6歳であるため、1-2歳の子どもを持つ親に対する質問項目については発達段階に沿った形式に改訂し使用した(例:パズルが上手・色の名前をよく知っている・お話が上手・片足で飛び跳ねるのが得意・他8項目)。回答は「あてはまる:4」から「あてはまらない:1」までの4段階評定を用いた。

②社会性尺度:菅原・向田・酒井・坂元・一色(2006)にて作成された社会性尺度を使用した。この尺度は、社会性を「仲間との関係において適応的な対人関係がとれる能力」と定義し、「協調性・共感性」を測定する9項目と「能動性・自己主張性」を測定する3項目の計12項目から構成されている。回答は「あてはまる:5」から「当てはまらない:1」までの5段階評定を用いた。

結果と考察

①コンピテンスの発達段階別・性差の検討:コンピテンスについて、発達段階別に性差の検討(独立したt検定)を行った。その結果、4歳以下では性差は認められなかったが、5-6歳児において男児よりも女児のコンピテンスが有意に高い($t=-2.48, p<.05$)ことが認められた(Table1 参照)。

②コンピテンスの卵性差の検討:卵性によるきょうだい間のコンピテンスの同異について検討するため、コンピテンス尺度のバージョン別(1-2歳版と3-6歳版)に一卵性双生児間と二卵性双生児間の相関を算出した。その結果、1-2歳・3-6歳バージョンの双方において一卵性双生児の間では中程度以上の相関が認められた($r=.86, r=.68, p<.01$)。二卵性双生児の間では3-6歳バージョンのみ低い相関が認められた($r=.38, p<.01$:Table2 参照)。

③コンピテンスと社会性との関連:乳幼児期におけるコンピテンスと社会性との関連について検討するため、発達段階と性差別に相関を算出した。その結果、1-2歳ではコンピテンスと社会性との間に相関が認められなかったが、3-4歳では男女ともにコンピテンスと能動性との間に中程度の相関が認められた($r=0.44, r=0.45, p<.05$)。さらに、5-6歳では男女ともにコンピテンスと協調性および能動性との間に中程度の相関が認められた(Table3 参照)。

以上の結果から、乳幼児期におけるコンピテンスは5-6歳頃になると性差が認められること(女児が男児よりも高い傾向)が明らかとなった。卵性によるきょうだい間のコンピテンスは一卵性きょうだいが二卵性きょうだいよりも類似度が高かったことから、乳幼児期におけるコンピテンスは環境の影響以上に遺伝的影響を強く受けている可能性が示唆された。コンピテンスと社会性との関連を検討した結果からは、発達にともなってコンピテンスと社会性との関連が強まることが明らかとなった。今後は、これらの結果を考慮し、子どもの社会性の発達に影響を及ぼす遺伝・環境要因について詳細な検討(たとえば家庭環境要因や社会環境要因を考慮したモデルの検証)を重ねていく予定である。

Table1 コンピテンスの発達段階別性差の検討

age	SEX	N	M	SD	t	df
1-2	Boy	16	3.02	0.44	-0.63	33 n.s.
	Girl	19	3.11	0.36		
3-4	Boy	26	2.83	0.60	-1.78	50 n.s.
	Girl	26	3.10	0.51		
5-6	Boy	48	3.04	0.64	-2.48	86 *
	Girl	40	3.34	0.45		

* $p<.05$

Table2 コンピテンスのきょうだい間相関

	一卵性	二卵性
1-2歳バージョン	0.86**	0.30
3-6歳バージョン	0.68**	0.38**

分析対象者は同性双生児 ** $p<.01$

Table3 コンピテンスと社会性との関連

age	sex	協調性	能動性
1-2	Boy	0.04	0.12
	Girl	0.05	0.31
3-4	Boy	0.19	0.44*
	Girl	0.11	0.46*
5-6	Boy	0.42**	0.54**
	Girl	0.55**	0.59**

* $p<.05$ ** $p<.01$

引用文献

Harter,S & Pike , R(1983) The Pictorial scale of perceived competence and social acceptance for Young Children,Procedural Manual to accompany, University of Denver
眞榮城和美(2010) 幼児期における自己知覚と精神的健康との関連, 日本発達心理学会第21回大会, 神戸国際会議場
菅原ますみ・向田久美子・坂元章・一色伸夫(2006) 子どもの社会性とメディア接触との関連, 子どもに良い放送プロジェクト, フォローアップ調査中間報告第四回調査報告書, 60-65